

## 事業報告書（令和 4 年度）

事業名 プラスチックごみから海や川そして子どもたちを守ろう

団体名 おかやまエコマインドネットワーク 担当者名 赤井藤子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

実施日時：2022 年 6 月 26 日(日)13 時～17 時

実施会場：岡山市立東山公民館

参加対象：一般

参加人数：60 名

実施内容：12:00 スタッフ集合

13:00～ 井田徹治さんの講演 「プラスチックに汚染される自然」

15:00～ ドキュメンタリー映画「プラスチックの海」上映会

共 催：岡山市立東山公民館

広報：公民館だより 2022 年 6 月号に案内掲載

アスエコ等環境関係の団体、報道にチラシ送付

実施：1 週間前に DVD 到着、確認。3 日前に講師より資料がメールで届く。膨大なのでチョイスして 20 ページの印刷物にまとめたが少し読みづらいところがあった。

### 2. ESD の視点

#### ①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

プラごみの増大が環境汚染を招いていることが世界的な問題になっている中、レジ袋の有料化が具体的になり、市民の関心が高まってきた 2019 年に当会にプラごみについての講座の依頼が来るようになった。その依頼にこたえる教材として「プラスチックごみ—日本のリサイクル幻想」という DVD を視聴することにした。その DVD を監修していた井田徹治さんを講師にお願いした。また、グローバルな問題であることと視覚的にプラスチック汚染をとらえることができる映画の視聴も同時に行った。先進国での豊かな生活が発展途上国に汚染を押しつけていることの不公正や、プラごみが生態系の破壊につながり、最終捕食者である人間に被害をもたらすことが分かった。巨大な海といえども有限であり、人間の傍若無人なふるまいを許容し続けるわけにはいかないのだと思わされた。

そして、その解決には一人一人が自分事としての責任を持ち、多くの関係者、企業、政府などが協働の力を発揮することが重要と分かった。

また、岡山市議 3 人、赤磐市議 1 人の参加があり、政策への反映が期待できた。政策に反映されればより多くの市民に気づきや行動変容につながる。子どもの参加もあり、映画のインパクトはしっかり伝わった。

参加者の以下のような感想により、気づきがあったことが分かり、今後の意識・行動の変容が期待できた。

- ・家に帰って自分のることを実践したい。
- ・身近なことからプラごみをへらしたい。

②どのように学び合いを取り入れたか

井田さんの資料は写真を中心に膨大であったが、データ等特に資料的に重要と思われる部分を抜粋して参加者に配布し、より講演に関心を持ってもらい、情報を得やすくした。

講演後、参加できなかった人の学習会をしたい等でデータが欲しいという申し出が 2 件あり、井田さんの了解のもと、お渡しした。

話し合う時間はなかったが、質問、感想の発言では、すでに河川や海でのごみ回収に取り組んでいる、ぜひ多くの人にも参加してほしいという具体的な意見もあり、プラごみ汚染が身近な問題であるとともに身近な取組や多くの人との協働で少しでも解決に向かうことができるということが学べたと思う。講演後も参加者が講師に挨拶、名刺交換、あるいは情報交換をしている姿が見られ、自分事ととらえているようだった。映画からも多くの学びがあり、参加者が共有したことが分かった。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

声を上げる、消費行動を見直すという学びにつながったという意見が得られた。当会からは具体的な提案はなかったが、アンケートからは社会的な出来事への関心の高い参加者が多く、すでに活動されていたり、この講演や映画視聴を契機に何らかの行動に移す意欲は感じられ、その後の市民の活動につながっているように思う。

・リサイクル可能であっても実際には行われていない、レジ袋有料化ももっと早くやればよかった。

・企業や行政の動きを待つのではなく、自分の声、行動で表現することが大切。

・リサイクルを頑張っているから大丈夫というのは誤りだったと気づいた。

・今のまま使い続けて代替可能なものを開発するという先送り体質が問題だ。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

アンケート等から参加者が講演や映画でプラスチックによる環境汚染の問題に気づくという目標は達成できたと思える

・世界の危機的状況を知った。

・魚や鳥の胃の中が本当にひどい。プラスチックで命を落としていることを重く受け止めたい。

・ポリ袋をたきつけにしているシーン、3mもの堆積物の上の作物、おそろしい。

・はじめてプラスチックごみの現状を知った。

気づいた市民がプラスチックの製品や容器包装の購入を控えるという目標も少しは達成できた。

・昔は麦茶を沸かしていたが今はペットボトル、身近なことからプラごみをへらしたい他の人にも気づいてもらうために講演を聞いたり、映画を観たりすることをすすめるという目標も少しは達成できた。

・口酸っぱく啓もうし、呼び掛けたい。

・もっと企業や社会に声を挙げていかなければならない。

気づいた企業はプラスチックに代替できる商品を開発するという目標は現時点ではこの事

(様式第8号)

業だけでは測れないが、実際には企業の取組も広がっている。

#### 4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

プラスチック削減のうねりが大きくなったと感じている。

今後もプラスチックごみの問題に引き続き取り組んでいくとともに、数年来取り組んでいる食品ロスの問題、食の安全の啓発にも取り組んでいきたい

### 写真添付

受付



井田さん講演 1



館長挨拶受付



井田さん講演 2



代表挨拶受付



井田さん講演 3

